

Y16a 天文学研究に対する寄附意識とその背景要因の分析

生田ちさと（JAXA）、高梨直紘（東京大学）、平松正顕（国立天文台）、玉澤春史（東京大学）、川越至桜（東京大学）、日下部展彦（自然科学研究機構 アストロバイオロジーセンター）

本講演では、天文学研究への寄附に関する市民意識を把握するため、2023年および2024年に実施された全国調査データの分析結果を発表する。2023年調査では、20～69歳の2,000名を対象に科学技術への関心や天文学に関する行動・知識等を調査し、寄附意欲によって4群に分類した。その結果、寄附意欲層は講演会や施設訪問への関心が高く、科学概念の理解度や情報アクセス力も高い傾向が見られた。2024年の調査（n=19,860）では、「天文学に寄附する」と回答した割合は約5%であり、寄附意識は「興味がある」「魅力を感じる」といった情緒的要因に基づく傾向が強かった。寄附意欲は、科学技術への関心（VSEG分類）、高年収層、男性で有意に高かった。寄附意欲が高い層の内、天文学への興味をもったきっかけとして上位だったのは「テレビ」「科学館・プラネタリウム」「授業」などであった。また興味をもった時期は、10代以前が6割を超えていた。以上の結果を踏まえた、より寄附が集まりやすく、継続性のある支援者との関係を築けるような施策についても議論する。